

会 議 録

会議の名称	アイセルシュラホール活用事業 第3回検討会議
開催日時	2022年12月23日(金) 10時00分から11時45分まで
開催場所	アイセルシュラホール 3階 研修室
出席者	有識者 大手前大学 森下教授 阪南大学 和泉教授 四天王寺大学 天野教授 大阪府 教育庁 文化財保護課 土屋課長補佐 三好主査 藤井寺市 観光課 松宮課長 松田チーフ 文化財保護課 尾花課長 新開課長代理 藤原主査 福田専門官 資産活用課 角谷副主査 生涯学習課 木村課長 図書館 松浦館長代理 事務局 株式会社スタジオ三十三 撫養 林 小柳
会議の議題	アイセルシュラホール観光拠点化基本構想の作成について
会議の要旨	・基本構想案変更箇所の確認について ・文化財展示計画案について
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他 ()
公開・非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	—
その他の必要事項	

打ち合わせ内容：

1. 参加者紹介

- ・事務局より参加者を名簿順に説明

2. 基本構想作成に伴う検討議題について（説明：文化財保護課）

1) 「第7章文化財展示計画」案について

（文化財保護課）

- ・展示ケースはそのまま利用する
- ・A2～A4のエリアの設備を収蔵展示スペースに改修する。なお、展示内容は前回と変更はないが常設展示だけではなく、企画展示も行えるように他からの借用資料に対応できる設備へ改修していく
- ・展示内容が固定的にならないよう、真新しさを追求し、リピーターを呼び込めるようにしていく

- ・まなりくんコーナーを1階に移動する

（有識者）

- ・A2～A4のエリアに展示する修羅（小）と水鳥埴輪はゆっくり四方から鑑賞できるような展示方法に工夫したほうが良い

- ・他から借用した遺物を展示する計画には賛成

- ・A5・A6のエリアは主墳・陪塚の説明ではなく、古墳時代の社会構造や権力構造を示すような展示にしてみてもどうか

- ・Bのエリアでは写真を使用し古墳の形・大きさを説明するのが良い

- ・2階はあくまでも深く学んでもらうコーナーとし、1階は現地へ足を運んでもらえるような魅力的なガイダンス機能とし、1階と2階のそれぞれの機能を分ける

- ・修羅（小）と他の遺物が同じ室内にあるのは大丈夫なのか

→資料によって展示ケースを分けるなど、資料の特徴に合わせた温湿度が調整可能な展示ケースが求められる（大阪府）

→収蔵展示室内も温湿度調整可能、さらに室内の展示ケース内も温湿度調整可能となるような、個別調整可能にできるような設備が必要（事務局）

（有識者）

- ・企画展示の催しには賛成する

・体験コーナーの内容は観光客のニーズに合わせなくても良い。教育的な内容でも来訪者は来るので問題はない

（大阪府）

- ・百舌鳥・古市古墳群の全体の流れを説明したうえで古市についての説明があると良い

・1階のガイダンスを見た来館者が2階へ上がって来た際にまず、A1のエリアで百舌鳥・古市古墳群についてわかるようにしてほしい

- ・Aのエリアで百舌鳥・古市古墳群についてイメージをもったうえで世界遺産がメインの

Bのエリアへ行けるように展示を工夫する

(大阪府)

・今後、国指定の文化財を借用・展示する予定はあるのか

→重要文化財が展示可能な設備改修を考えている(文化財保護課)

(生涯学習課)

・物品の置き場所の収納場所を確保しないとイケない

・一部の部屋が物置きにならないように部屋割りを工夫しなければならない

・ワークショップスペースと体験コーナーの目的の違いは何か

→ワークショップスペースは地域の街づくりの方々がワークショップ・研究ができるスペース、体験コーナーは来訪者の方が利用できるコーナーにする(観光課)

(観光課)

・ビデオコーナーの物品の撤去に関しては後日確認をとる

3. 基本構想(案)について

・事務局より第2章から第7章の変更箇所について説明

・観光課よりESCO事業について説明

・観光課より図書機能について説明

・事務局より第8章から第9章について説明

1) 修羅(大)(レプリカ)について

(生涯学習課)

・宣伝塔として市内の他の場所へ移設展示しても良いのでは

→天満宮には既に修羅がある。パープルホールまたは市役所前、駅前に置く(有識者)

→文化財的な価値として資料として残すことが第一優先、第二に設置場所はアイセルシュラホールがふさわしい。置き方を工夫しオブジェとして、設置しても良いのでは(有識者)

→オブジェとして扱うのなら置き方を検討しなくてはならない。人形の移設・展示については今後、検討する(事務局)

→1階の情報公開ステーション又はフジイデラ屋内マルシェに置くのが良いのでは。人形に似ている人を探しても面白い(有識者)

→これまでの展示では修羅(大)と修羅(小)は実物とレプリカのいずれかセットで展示している。それに縛られる必要ないが今後もそのような展示の仕方が良いのでは(文化財保護課)

→アイセルシュラホールの建物の造形説明の際に修羅(大)(レプリカ)があればよりわかりやすく来訪者の方に理解してもらえる(文化財保護課)

→観光的な観点からすると置き場所はアイセルシュラホールか駅になる。しかし、藤井寺駅に観光的な観点で修羅(大)(レプリカ)を置く意味はない。それよりも、博物館的な発想で図書館よりもアイセルシュラホールへ移設展示するのが適任である(有識者)

(生涯学習課)

- ・来館者の方々が利用しやすいように設置してほしい

2) 多目的テラスについて

(有識者)

- ・興味のある人、ない人の足を止める為に飲食要素がある方が良い
- ・アイセルシュラホール内に人を呼び込むための機能・手段として中と外の間空間にする

→第4章に追記する。温室の中でも飲食ができるような要素を残しつつ、外から見た時に飲食ができ、さらに多目的に使用できるように含みを持たせた書き方にする(観光課)

3) 情報公開ステーションについて

(有識者)

- ・観光の現地へ行った際に何が見られるのかが重要
- ・地上の目線からの景色や様々な古墳の情報を情報公開ステーションで示す

4) 3階・4階の今後の利用について

(生涯学習課)

- ・利用者の方が基本構想(案)を読んだ際、わかりやすいように3・4階はこれまでどおり利用できる旨を「2-4 アイセルシュラホールの現状」に記載しておく

4. その他

1) 街づくりについて

(有識者)

- ・観光はソフト面が重要になってくる
- ・教育的・観光的な内容は相互扶助の関係性であり、メリハリをつけたほうが上手くいく
- ・街づくりは曖昧なものではなく、明確な多様性が多くあり、それが相互的に扶助しているのが良い街だと考えている
- ・魅力を理解し、魅せ方の方向性がきちんと決まっていれば、内容が教育的・観光的に分かれていても上手くいく
- ・1番良くないのは内容が教育的か観光的か曖昧な感じになること

→今のままでは温室が教育的か観光的か曖昧である。今後、さらに内容を検討する(観光課)

→歴史に興味ない人は飲食などの購入目的なら毎日訪れてくれる。来館した際に変化が乏しいと感じてしまわないよう工夫が必要。一つの核として賑わいをつくっていくことが可能な場所として活用したい(有識者)

2) 水鳥型埴輪の修理について

(大阪府)

- ・水鳥型埴輪を展示・活用すると考えているのなら、修理の事も考えなくてはならない。重要文化財の修理は時間がかかる。それを見据えての展示計画になればより良い展示に

なると思う

3) 今後のスケジュールについて

追加の意見等があれば、2023/1/10（火）までにメール等で事務局へ知らせる

↓

基本構想（案）の再度修正

メールにて基本構想（案）を関係者へ送付

↓

（内容に問題がなければ）

↓

パブリックコメントを募集（1月末～2月頃を予定）

↓

パブリックコメントをもとに基本構想（案）を修正

↓

メールにて基本構想（案）を関係者へ送付

↓

基本構想の完成（年度末）

以上